

主な経歴および Chapter 運営に関する抱負

【氏 名】 林田 智弘 (HAYASHIDA, Tomohiro)

【所属・職】 広島大学大学院先進理工系科学研究科・准教授

【連絡先】 広島県東広島市鏡山 1 - 4 - 1

hayashida@hiroshima-u.ac.jp

【研究業績】

学術雑誌掲載論文 71 編 および国際会議発表論文（査読付き） 55 編

主なものを以下に挙げる。

- (1) Tomohiro Hayashida, Ichiro Nishizaki, Shinya Sekizaki and Yuki Takamori, “Improvement of Particle Swarm Optimization Focusing on Diversity of the Particle Swarm”, Proceedings of 2020 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics (SMC2020), online, (2020).
- (2) Tomohiro Hayashida, Ichiro Nishizaki, Shinya Sekizaki and Yuki Ogasawara, “Development of a classifier system for a continuous environment,” Electronics and Communications in Japan, vol. 102, no. 10, pp. 17-25, (2019).
- (3) 林田 智弘, 水口 拓也, 山本 透, 木下 拓矢, 西崎 一郎, 関崎 真也, “オフライン学習のリカレントニューラルネットワークを用いたパフォーマンス駆動型制御系の提案,” 電気学会論文誌 C (電子・情報・システム部門誌), Vol.139, No. 4, pp. 414-420, (2019).
- (4) 林田 智弘, 西崎 一郎, 関崎 真也, 武内 宏明, “エイリアス状態のある POMDP に対する予測的クラシファイアシステムの改良,” 知能と情報 (日本知能情報ファジィ学会誌), 30(4), pp. 658-665 (2018).
- (5) Tomohiro Hayashida, Ichiro Nishizaki, Shinya Sekizaki, and Yuki Ogasawara, "Develop of a classifier system for continuous environment using neural network," Proceedings of 2018 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics (SMC2018), Miyazaki, Japan, 184-188 (2018).
- (6) Tomohiro Hayashida, Toru Yamamoto, Takuya Kinoshita, Ichiro Nishizaki, Shinya Sekizaki and Naoto Hiratsuka, “System change detection method using recurrent neural networks,” Electronics and Communications in Japan, 101, pp. 39-46, (2017).
- (7) Tomohiro Hayashida, Ichiro Nishizaki, Shinya Sekizaki and Shunsuke Koto, “Cooperative particle swarm optimization in distance-based clustered groups,” Journal of Software Engineering and Applications (JSEA), 10, pp. 143-158 (2017).
- (8) Tomohiro Hayashida, Ichiro Nishizaki, Shinya Sekizaki, Shunsuke Koto, “Distance-based clustering of population and intergroup cooperative particle swarm optimization,” Proceedings of 2016 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics (SMC2016), Budapest, Hungary, pp. 1359-1364 (2016).

- (9) Tomohiro Hayashida, Ichiro Nishizaki and Yoshifumi Uno, “Agent-based simulations for examining stability and efficiency of societies with respect to partnership structures,” Journal of Contemporary Management, 5, pp. 1-12, (2016).
- (10) Tomohiro Hayashida, Ichiro Nishizaki and Rika Kambara, “Simulation analysis for network formulation,” Computational Economics, 43 (3), pp. 371-394 (2014).

【外部委員】

H20 (2008).1～H22 (2010).1	IEEE SMC Hiroshima Chapter, Secretary
H24 (2012).1～H25 (2013).12	IEEE SMC Hiroshima Chapter, 選挙管理委員長
H27 (2015).1～H30 (2018).12	IEEE SMC Hiroshima Chapter, vice Chair
H29 (2017).10～R2 (2020).9	電気学会 電子・情報・システム部門 (C 部門) 制御技術委員会 「制御工学および機械学習の相互強化とその応用展開調査専門委員会」委員長.
H31 (2019).1～現在	IEEE SMC Hiroshima Chapter, Chair
R2 (2020).10～現在	電気学会 電子・情報・システム部門 (C 部門) 制御技術委員会 「制御工学および機械学習の相互強化と応用に関わる調査専門委員会」委員長.

【抱 負】

私は、2015 年より IEEE SMC Hiroshima Chapter, vice Chair を 4 年間務めさせていただき、現在、2 年間の任期で Chair を務めさせていただいています。それ以前にも、Secretary や選挙管理委員長として、Chapter の活動に関わらせていただけてきました。この間、IEEE SMC Hiroshima Chapter 若手研究会では、2012 年から実行委員として、2013, 2015 年にはプログラム委員長、2016, 2017, 2018 年には実行委員長、2019, 2020 年には組織委員長を務めさせていただきました。IEEE International Workshop on Computational Intelligence and Applications (IWCIA) では、2013 年から Program Committee として、2014, 2015, 2017 年には Program Chair, 2016 年には Publication Chair, 2019 年には General Chair を務めさせていただきました。

これらの活動は、歴代の Chapter Chair の皆さまがリーダーシップを発揮されて運営されてきたものであり、回を重ねるごとに盛り上がりを増してきています。2015, 2019 年には、SMC ソサイエティのメインカンファレンスである IEEE SMC2015 および SMC2019 において、本 Chapter の活発な活動に対して、IEEE SMCS Outstanding Chapter Award を与えられました。これまでは広島県の研究者を中心とした活動でしたが、広島県以外の研究者の参加も徐々に増えています。

IEEE SMC Hiroshima Chapter は、Systems, Man, and Cybernetics という、人間工学、エネルギープロセス工学や知的システムなどを含む、計算機科学を応用した非常に幅広

い研究分野を対象としています。これは、中国地方の各大学・研究機関・企業に所属する多くの方々に関係しており、本 Chapter がお役に立てる潜在的なネットワークは中国地方全体に大きく広がっています。本 Chapter の主催・共催するイベントが、地域の研究者にとって活発な議論の場となるだけでなく、複数の分野を横断する新たな研究課題の発見の場となり、皆さまのより活発な研究交流の場となるように務めてまいりたいと考えております。

今後とも、中国地方および周辺地域の関連分野の研究者に対して、研究会・講演会の講演者あるいは聴講者としての参加を引き続き積極的に呼びかけ、これらの皆さまにとっての有益な学術的交流、人的交流を促進する機会を提供できるように努力してまいりたいと考えています。私自身、本 Chapter の主催事業に参加することで、SMC ソサイエティに関連する多様な研究分野について最新の動向を得るとともに、自身の研究活動を深め、幅を広げる機会を得ることができました。本 Chapter の会員の皆様はもちろん、今後新たに本 Chapter の活動に触れる方々にも、同様のことを感じていただけるよう引き続き努力する所存です。

どうぞよろしくお願いいたします。

以上

主な経歴および Chapter 運営に関する抱負

【氏 名】 田村 慶一 (TAMURA, Keiichi)

【所属・職】 広島市立大学大学院情報科学研究科・教授

【連絡先】 広島市安佐南区大塚東 3 - 4 - 1

ktamura@hiroshima-cu.ac.jp

【研究業績】

学術雑誌掲載論文 36 編, および国際会議発表論文 (査読付き) 66 編

主なものを以下に挙げる.

- (1) 橋田 修一, 田村 慶一: Multi-Channel MHLF を用いた時系列データの分類手法, 情報処理学会論文誌 数理モデルとその応用(TOM), Vol.13, No.2, pp.22-35, 2020 年 8 月.
- (2) Keiichi Tamura, and Takumi Ichimura: Time Series Classification using MACD-Histogram-based Recurrence Plot, International Journal Computational Intelligence Studies, Vol.7 No.3, pp.192-213, 2018.
- (3) 酒井達弘, 田村慶一, 北上始, 竹澤寿幸: 最小外接矩形とセルの再帰分割を用いたセルベースの DBSCAN の高速化, 電子情報通信学会論文誌 D「データ工学特集号」, Vol.J101-D,No.4, pp.690-701, 2018 年 4 月.
- (4) Keiichi Tamura, Hajime Kitakami, and Tatsuhiko Sakai: Adaptive Distributed Modified Extremal Optimization for Maximizing Contact Map Overlap and Its Performance Evaluation, International Journal Computational Intelligence Studies, Vol.6, No.4, pp.288-310, December 2017.
- (5) Shota Kotozaki, Keiichi Tamura, and Hajime Kitakami: Identifying local burstiness in a sequence of batched georeferenced documents, International Journal of Electronic Commerce Studies (IJECS), Vol.6, No.2, pp.269-288, 2015.
- (6) Tatsuhiko Sakai and Keiichi Tamura: Real-time Analysis Application for Identifying Bursty Local Areas Related to Emergency Topics, SpringerPlus, 4:162, April 2015.
- (7) 中田章宏, 田村慶一, 北上始, 高橋誉文: CMO 問題に対する改良版 EO を用いた発見的解法, 情報処理学会論文誌 数理モデル化と応用, Vol.6, No.3, pp.87-99, 2013 年 12 月.
- (8) Yagi Shinpei, Keiichi Tamura, and Hajime Kitakami: Parallel processing for stepwise generalisation method on multi-core PC cluster, Special Issue on "Advanced Soft Computing Methodologies and Applications in Web Intelligences," International Journal of Knowledge and Web Intelligence (IJKWI), Inderscience Publishers, Vol. 3, No. 2, pp.88-109, 2012.
- (9) 田村慶一, 木村浩明, 荒木康太郎, 北上始: 段階的一般化法によるミスマッチクラスタを表現する最小汎化集合の効率的抽出, 電子情報通信学会論文誌 D「データ工学特集号」,

Vol.J93-D,No.3, pp.189-202, 2010 年 3 月.

- (10) 田村慶一, 岩木 稔, 高木 允, 北上 始: PC クラスタにおける混合整数計画問題の並列処理とその性能評価, 情報処理学会論文誌 数理モデル化と応用, Vol. 46, No. SIG 17(TOM 13), pp.56-69, 2005 年 12 月.

【外部委員】

H24.1～H24.12	IEEE SMC Hiroshima Chapter, Treasurer
H25.1～H26.12	IEEE SMC Hiroshima Chapter, Secretary
H29.1～H30.12	IEEE SMC Hiroshima Chapter, Secretary
H31.1～現在	IEEE SMC Hiroshima Chapter, Vice Chair
H28.5～現在	電子情報通信学会常任査読委員
R2.4～現在	情報処理学会論文誌:数理モデル化と応用・編集委員

【抱 負】

現在, 2019-2020 期において, IEEE SMC Hiroshima Section Chapter の Vice Chair を務めさせていただいております. Chapter が主催する若手研究会, 国際ワークショップ (IWCIA), 講演会や講習会などの活動に対してご協力していただきました会員の皆様にはこの場をお借りして厚くお礼を申し上げます. これまでに, Chapter の役員として 4 期, Treasurer (2012 期), Secretary (2013-2014 期, 2017-2018 期), Vice Chair (2019-2020 期) を務めさせていただきました. 今回, Vice Chair (2021-2022 期) として立候補の機会をいただきました. Vice Chair として, Chair の補佐に専念し, Chapter が主催・共催する研究会や講演会が会員の皆様にとって, 若手育成の場と地域内地域間の交流に花を咲かせる場となるように, 次期役員の皆様と協力して企画・運営に取り組んでいきたいと存じます.

少子高齢化の波とともに学会活動離れは IEEE にとっても大きな課題のひとつになるのではないかと思います. ウイズコロナで, オンラインを通して物理的な距離がなくなることは, 活動の幅を広げることができる可能性を秘めていますが, 地域における学会活動の意義が薄まってしまうことも考えられます. SMC ソサエティは, Systems, Man, and Cybernetics というコンピュータサイエンスを横断する数多くの分野をカバーしており, 役員自らが活動を牽引して, 新しい学術分野を開拓することで地域の学会活動を活発化しないと, 学会としての存在が薄まっていくという危機感を感じています.

新しい時代の訪れとともに, 2021-2022 期は Chapter にとっても大きな転換点を迎えるかと予想しております. 時代の変化に対応しつつ, 地域において新しい学術分野を開拓することで地域を活性化するのが Chapter に課せられた使命だと思います. Chapter の 3 つの基本方針は, 「学生会員を含め, IEEE への入会を積極的に勧めています.」, 「科学と工学の分野において, 企業との交流, 研究会を促進します.」, 「環境, 社会システムなどに対する

目標を設定し、研究グループを形成します。」です。 Vice Chair として選任されましたら、原点に戻り Chapter の持つ地域性と SMC ソサエティが持つ分野横断の強みを活かし、3つの基本方針に基づく Chapter の活動が今以上に活発になるように努めてまいります。

以上

主な経歴および Chapter 運営に関する抱負

【氏 名】 広谷 大助 (HIROTANI, Daisuke)

【所属・職】 県立広島大学地域創生学部・准教授

【連絡先】 広島市南区宇品東 1-1-71

dhiro@pu-hiroshima.ac.jp

【研究業績】

学術雑誌掲載論文 23 編 および国際会議発表論文（査読付き）45 編

主なものを以下に挙げる．

- (1) Daisuke Hirotani, Katsumi Morikawa, Keisuke Nagasawa and Katsuhiko Takahashi, "New approach for arranging worker sequence to self-balancing production line with worker and station dependent speed," Proceedings of the 20th Asia Pacific Industrial Engineering and Management System Conference (APIEMS 2019), December 2-5, Kanazawa, Japan, pp.796-800, 2019. (in USB)
- (2) Aditya Tirta Pratama, Katsuhiko Takahashi, Katsumi Morikawa, Keisuke Nagasawa, and Daisuke Hirotani, "Integration of bucket brigades and worker collaboration in migration process from craft manufacturing to assembly line," Asia-Pacific Journal of Industrial Management, Vol. VIII, No. 1, pp. 40-58, 2019.
- (3) Daisuke Hirotani, Katsumi Morikawa, Katsuhiko Takahashi, Keisuke Nagasawa, "Analysis of Y-shaped self-balancing line with walk-back and travel time," Industrial Engineering & Management Systems, Vol. 17, No. 2, pp. 327-333, 2018.
- (4) Aditya Tirta Pratama, Katsuhiko Takahashi, Katsumi Morikawa, Keisuke Nagasawa, and Daisuke Hirotani, "Integration of bucket brigades and worker collaboration on a production line with discrete workstations," Industrial Engineering & Management Systems, Vol. 17, No. 3, pp. 514-530, 2018.
- (5) Aditya Tirta Pratama, Katsuhiko Takahashi, Katsumi Morikawa, Keisuke Nagasawa and Daisuke Hirotani, "Cellular bucket brigades with worker collaboration on U-lines with discrete workstations," Industrial Engineering & Management Systems, Vol. 17, No. 3, pp. 531-547, 2018.
- (6) Katsumi Morikawa, Katsuhiko Takahashi, and Daisuke Hirotani, "Performance evaluation of candidate appointment schedules using clearing functions", Journal of Intelligent Manufacturing, Vol. 29, No. 3, pp. 509-518, 2018.
- (7) Daisuke Hirotani, Katsumi Morikawa, Keisuke Nagasawa and Katsuhiko Takahashi, "Exact Solution Technique to Balance for Self-Balancing Production Line with Worker and Station Dependent Speed," Proceedings of the 19th Asia Pacific Industrial Engineering and Management System Conference (APIEMS 2018),

December 5-9, Hong Kong, 2018.

- (8) Daisuke Hirotani, Koki Hidaka, "Revised preventive maintenance policy for single-stage Kanban system with deterioration failures, " Proceedings of the 14th International Conference on Industrial Management (ICIM 2018), September 12-14, Hangzhou, China, pp. 202-207, 2018.
- (9) Daisuke Hirotani, Katsumi Morikawa, Keisuke Nagasawa and Katsuhiko Takahashi, "Worker coordination policy for self-balancing production line with worker and station dependent speed," Proceedings of the 18th Asia Pacific Industrial Engineering and Management System Conference (APIEMS 2017), December 3-6, Yogyakarta, Indonesia, A8-13 - A8-18, 2017. (in USB)
- (10) Daisuke Hirotani, Katsumi Morikawa, Keisuke Nagasawa, and Katsuhiko Takahashi, "Modified work rule for Y-shaped self-balancing line with walk-back and travel time," Proceedings of the 17th Asia Pacific Industrial Engineering & Management Systems Conference (APIEMS 2016), December 7-10, Taipei, Taiwan, 2016. (in USB)

【外部委員】

- H23.5～H31.5 日本経営工学会，国際渉外委員会，委員
- H26.4～H29.3 日本経営工学会，中国四国支部，支部運営委員
- H29.1～H30.12 IEEE SMC Hiroshima Chapter Treasurer
- H29.3～現在 日本オペレーションズ・リサーチ学会，中国四国支部，支部運営委員
- H29.4～現在 日本経営工学会，中国四国支部，事務局長
- H29.7～現在 日本経営工学会，支部委員会，委員
- H31.1～現在 IEEE SMC Hiroshima Chapter Secretary
- R2.10～現在 日本経営工学会，選挙管理委員会，委員

【抱 負】

今回，前回に引き続き Secretary に立候補します．これまでも Treasurer として 2 年間，Secretary に 2 年間関わり，本学でもターゲットとしている IoT・AI をはじめとする様々な事を勉強できました．これらの経験を活かし，次の期でも Chapter の発展に微力ながら尽くしていきたいと考えております．

以上

主な経歴および Chapter 運営に関する抱負

【氏 名】 垣内 洋介 (KAKIUCHI, Yosuke)

【所属・職】 広島工業大学情報学部情報工学科・准教授

【連絡先】 広島県広島市佐伯区三宅 2 - 1 - 1

y.kakiuchi.du@cc.it-hiroshima.ac.jp

【研究業績】

学術雑誌掲載論文 9 編 および国際会議発表論文（査読付き）3 編

主なものを以下に挙げる．

- (1) 大盛将, 垣内洋介, 松本慎平: "授業における PC 操作情報を用いた活動状況可視化手法", 教育システム情報学会誌, Vol.36, No.2 (2019).
- (2) Kiyoharu Hamaguchi, Yosuke Kakiuchi, Ryosuke Takakura: "Applying Bayesian Network-Based Machine Learning to Regression Design Verification," Proceedings of the 21st Workshop on Synthesis and System Integration of Mixed Information Technologies (2018).
- (3) 垣内洋介: "形式手法を用いた SysML システム要求仕様に対する制約解析", 電気学会論文誌 C Vol.137, No.6, pp.809-814 (2017).
- (4) Yosuke Kakiuchi, Kiyoharu Hamaguchi: "Coverage-Driven Design Verification Using a Diverse SAT Solver", IEICE TRANSACTIONS on Fundamentals of Electronics, Communications and Computer Sciences, Vol.E100-A, No.7, pp.1481-1487 (2017).
- (5) Yosuke Kakiuchi, Kosuke Kato, Hideki Katagiri: "Modeling and Solving Open Shop Cooperative Task Scheduling Problems Based on Satisfiability Modulo Theories", Scientiae Mathematicae Japonicae, e-2017 Whole Number 30 (2017).
- (6) 片桐英樹, 呉宏偉, 羽森寛, 垣内洋介, 加藤浩介, "アライメント撮像を考慮したプリント基板の検査経路最適化", 日本経営システム学会誌 Vol.32 No.3 pp.341-351 (2016).
- (7) Hideki Katagiri, Hong Wei Wu, Yosuke Kakiuchi, Hiroshi Hamori and Kosuke Kato: "A Route Optimization Problem in Electrical PCB Inspections with Alignment Operations", International Society for Mathematical Sciences: Scientiae Mathematicae Japonicae Vol.78 No.3, (2016).
- (8) Yosuke Kakiuchi, Tomofumi Nakagawa, Kiyoharu Hamaguchi, Tadaaki Tanimoto and Masaki Nakanishi: "Symbolic Discord Computation for Efficient Analysis of Message Sequence Charts", IPSJ Transactions on System LSI Design Methodology, Vol.4, pp. 210-221 (2011)
- (9) 垣内洋介, 北嶋暁, 浜口清治, 柏原敏伸: "モニターベース形式検証のための入力制約を考慮したモニタ回路生成手法", 電子情報通信学会論文誌 Vol.J89-D No.4, pp.674-682 (2006)

- (10) Yosuke Kakiuchi, Akira Kitajima, Kiyoharu Hamaguchi, Toshinobu Kashiwabara:
"Automatic Monitor Generation from Regular Expression Based Specifications for
Module Interface Verification," Proceedings of IEEE International Symposium on
Circuits and Systems, pp.3555-3558 (2005)

【外部委員】

R2 2020 IEEE SMC Hiroshima Chapter 若手研究会 実行委員

【抱 負】

新たに IEEE SMC Hiroshima Chapter, Secretary 担当として立候補させていただくことになりました, 広島工業大学の垣内と申します. 広島県内の一研究者として, 日頃からお世話になっている SMC Hiroshima Chapter の運営に携わらせていただければという思いから, 立候補させていただきます. よろしくお願い致します.

SMC ソサイエティは, Systems, Man, and Cybernetics という幅広い分野にわたるコミュニティであり, 研究者の方々や会員のみなさまによって支えられている組織で, その中でも Hiroshima Chapter は中国地方の大学や研究機関, 企業の中心的な交流拠点として大きな存在感を発揮していると認識しております. 主催・共催イベントによって, 中国地方および日本各地からたくさんの研究者にお越しいただき, 活発な議論を行う場を提供しております. また, 若手向けの研究会も開催し, 近隣地域の大学から多数のエントリーがあることから, 若手研究者や学生の育成という面においても, 大変重要な役割を担っていると認識しております.

このように多くの方々のご尽力によって創り上げられてきた組織に携わるということで, いささか重責を感じております. 何分, 新参者であり, いろいろと不慣れな点もございますが, 長年, このソサイエティを支えてくださっている会員・役員の方々に敬意を抱きつつ, 職責を全うできればと考えております. また, 私自身も, Chapter の様々な事業に携わらせていただいて, 自身の研鑽の糧とさせていただくとともに, その運営に貢献できますよう尽力させていただきたいと考えております. どうぞよろしくお願い致します.

以上

主な経歴および Chapter 運営に関する抱負

【氏 名】 酒井 達弘 (SAKAI, Tatsuhiko)
【所属・職】 島根大学学術研究院理工学系・助教
【連絡先】 島根県松江市西川津町 1060
sakai@cis.shimane-u.ac.jp

【研究業績】

学術雑誌掲載論文 6 編 および国際会議発表論文（査読付き） 22 編

主なものを以下に挙げる。

- (1) Tatsuhiko Sakai 【Honorable Mention Award】 , Keiichi Tamura, Hajime Kitakami, and Toshiyuki Takezawa, “Anytime Algorithm for Cell-based DBSCAN by Connecting Randomly Selected Cells,” 2020 9th International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI-AAI 2020), pp.68-73, 2020.
- (2) Tatsuhiko Sakai, Keiichi Tamura, “Analyzing Geo-tagged Tweets about COVID-19 in Japan using MACD-Histogram-based Burst Detection,” 2020 9th International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI-AAI 2020), pp.822-823, 2020.
- (3) Shuichi Hashida, Keiichi Tamura, and Tatsuhiko Sakai, “Classifying Tweets using Convolutional Neural Networks with Multi-Channel Distributed Representation,” IAENG International Journal of Computer Science, Vol.46, No.1, pp.68-75, 2019.
- (4) Tatsuhiko Sakai, Keiichi Tamura, Hajime Kitakami, and Toshiyuki Takezawa, “Density-based Multimodal Spatial Clustering using Pre-trained Deep Network for Extracting Local Topics,” Fifth International ACM SIGMOD Workshop on Managing and Mining Enriched Geo-Spatial Data (GeoRich2018), pp.7-12, 2018.
- (5) 酒井 達弘, 田村 慶一, 北上 始, 竹澤 寿幸, “最小外接矩形とセルの再帰分割を用いたセルベースの DBSCAN の高速化”, 電子情報通信学会論文誌 D, Vol.J101-D, No.4, pp.690-701, 2018 年
- (6) Tatsuhiko Sakai, Keiichi Tamura, Hajime Kitakami, and Toshiyuki Takezawa, “Photo Image Classification using Pre-trained Deep Network for Density-based Spatiotemporal Analysis System,” 2017 IEEE 10th International Workshop on Computational Intelligence and Applications (IWCI2017), pp.207-212, 2017.
- (7) Keiichi Tamura, Hajime Kitakami, and Tatsuhiko Sakai, “Adaptive Distributed Modified Extremal Optimization for Maximizing Contact Map Overlap and Its Performance Evaluation,” International Journal Computational Intelligence Studies, Vol.6, No.4, pp.288-310, 2017.
- (8) Tatsuhiko Sakai, Keiichi Tamura, and Hajime Kitakami, “Density-based Spatiotemporal Analysis System with Photo Image Classifier using the BoF Model,”

Information Engineering Express (IEE), Vol.1, No.4, pp.85-94, 2015.

- (9) Tatsuhiro Sakai and Keiichi Tamura, “Real-time Analysis Application for Identifying Bursty Local Areas Related to Emergency Topics,” SpringerPlus, 4:162, 17 pages, 2015.
- (10) Tatsuhiro Sakai, Keiichi Tamura, and Hajime Kitakami, “Extracting Attractive Local-Area Topics in Georeferenced Documents using a New Density-based Spatial Clustering Algorithm,” IAENG International Journal of Computer Science, Volume 41 Issue 3, pp.185-192, 2014.

【外部委員】

該当なし

【抱 負】

今回, 初めて IEEE SMC Hiroshima Chapter の役員に立候補させていただきます. 私は, 若手研究会や IWCIA など本チャプターが主催する事業に, 2013 年から参加させていただいております. また若手研究会では, 学生委員と実行委員として, 微力ながら運営に携わらせていただきました. 本チャプターが主催する事業では, 最新の研究を知るとともに, 自身の研究を深めることができました. また, 中国地方の研究者や学生の多くの方々と交流できたことは, 私にとって大変貴重な経験となりました. 感謝申し上げます.

私はソーシャルメディアを対象とした時空間データマイニングに関する研究に携わってきました. これまでの本チャプターでの発表や交流を通じて, 自身が成長するとともに, 研究を築き上げることができたと感じております. **Treasurer** として選任されましたら, 次期役員の皆様と協力して学会や講演会などの運営に取り組み, 私と同様に学生や研究者が成長できる場を作れるよう努力する所存です. どうぞよろしくお願いいたします.

以上